

平成28年度 学校評価表 (中間 ・ 最終)

東広島市立西条小学校

<p>学校教育目標</p>	<p>人間性豊かで 創造性に富み たくましく生きる子どもを育成する</p>	<p>「独創スピリッツ」の発揮 ～ 「優秀のかなたの学び」に出会える学校 ～</p> <p>【めざす学校像】「西条教育」の原点を学び、継承・発展を続ける学校 【めざす児童像】本気で考え、優しい心とチャレンジ意欲をもつ児童 【めざす教師像】『独創』を旨に真摯に学び、つねに子どもを最優先に考える教職員</p>
---------------	---------------------------------------	---

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値		自己評価		学校関係者評価			改善方策	担当分掌部	担当者	
				10月	2月	達成度	評価	結果と課題の分析 (○成果▲課題)	評価					
				達成値	達成値				適正	不適正				分からない
<p>確かな学力★考える</p>	<p>学びの変革アクションプランの西条方式を研究公開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独創スピリッツを発揮させる単元・授業づくり ・ICTの活用とチームティーチングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・CRTの達成度 (活用) ・研究会参加者の授業評価 	<p>低75% 中70% 高70%</p> <p>平均 3.5以上 【4段階】</p>	<p>低69% 中71% 高71%</p> <p>平均 3.6 【4段階】</p>	<p>93%</p> <p>103%</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>○CRTの活用問題の達成度において、目標値を上回ることができた。児童が独創スピリッツを発揮し、本気で考える授業を行ってきたことが、学習内容の理解を深めることにつながったと言える。また、教育研究会の参加者からの授業評価において、全ての項目で3.5以上の評価を得ることができたことは、学びの変革アクションプランの西条方式が有効であったと捉えることができる。</p> <p>▲CRTの結果において、正答率30%未満の児童が各教科数名程度いた。特に算数科においては、19名と多かった。個に応じた指導の必要がある。</p> <p>▲本年度、すべての単元において、児童が独創スピリッツを発揮し、本気で考える授業が行われたとは言えない。より多くの単元でそのような授業が行われるように、継続して授業研究を行っていく必要がある。</p>	<p>・本年度の授業研究の成果を生かして、児童が独創スピリッツを発揮し、本気で考える授業の創造を継続する。</p> <p>・ICTの活用やチームティーチングを引き続き実施し、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>・学びを支える基礎・基本の学力の定着を図るため、スキルタイムや家庭学習を各学年の発達段階に合わせて活用する。</p>	<p>教務部</p>	<p>森田</p>			
	<p>「自ら学ぶ子ども」学習意欲の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びウィーク」一人1チャレンジする「学びんピック」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びんピック」一人1チャレンジ 	<p>達成率 100%</p>	<p>達成率 100%</p>	<p>100%</p>	<p>A</p>	<p>○本年度は、内容を自主学習に絞る、「一人1チャレンジ」児童個々の実態に合わせた目標値となるように、担任によるきめ細かな支援をしたことで、児童の取組への意欲が持続し、自主学習の内容の充実につながった。</p> <p>▲年度初めに『自主学習の手引き』を配付したが、児童アンケート「活用した」は25%(高学年)だった。配付後、家庭での活用を促す働きかけが弱かったといえる。</p>	<p>・各学年の宿題について量や内容面での見直しを行うとともに、中・高学年においては、宿題に加え、学校での予習・復習を行わせることで、学校と家庭をつなぐ自主学習の習慣化を図る。</p> <p>・『自主学習の手引き』の冊子を児童に配付し、年間を通しての継続的な活用によって、自主学習の充実を図る。</p>			<p>福岡</p>		
<p>豊かな心★育て</p>	<p>友情を大切に育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達のいいところ見つけ」の実施 ・想像力を育てる一名作読書と環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校大好き」アンケートの肯定的回答率 (高学年)「学校自慢」 ・名作読書率 	<p>肯定的回答率 90%</p> <p>平均 50%</p>	<p>肯定的回答率 94%</p> <p>読書率 25%</p>	<p>106%</p> <p>124%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○年に2回「友達のいいところ見つけ」を行い、友達や自分の良さについて再発見することで、高い自己肯定感をもつことができた。</p> <p>▲図書室の環境整備、新刊本がすぐに読める「高台新刊選」の取組や名作リストを選定し児童に紹介するなど取組を行ったが、「我が家は家庭で読書をしている」と回答した保護者の割合は68.4%と低い結果であった。「親子読書」や図書だよりの取組を月1回行っているが、児童の読書の幅を広げる取組をさらに細やかに行う必要があった。</p>	<p>・引き続き、「友達のいいところ見つけ」の取り組みを行うとともに、いじめ体罰アンケートの記述などから、現状を把握し課題解決に向けた職員研修、スクールカウンセラー等の助言を基に行う。</p> <p>・児童の読書率の向上だけでなく、様々なジャンルの本に親しめるよう、国語科の学習と並行して読書活動を行ったり、家庭読書の取り組みを強化すべく、保護者への呼びかけも行う。</p>	<p>生徒指導部</p>	<p>中村</p>			
	<p>学校外で通用する立ち居振る舞いのできる西条小の児童の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの無言」の徹底 ・無言移動 ・無言掃除 ・無言集合 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの無言」児童による自己評価 	<p>自己評価率 90%</p>	<p>無言移動 83% 無言掃除 76% 無言集合 81%</p> <p>無言移動 93% 無言掃除 87% 無言集合 90%</p>	<p>90%</p>	<p>B</p>	<p>○2か月に1度のみぎある週間や無言掃除強化週間を児童会活動と連動させたり、各クラスでの振り返りを丁寧に行ったことで、前期と比較して3つの無言とも児童の肯定的評価の割合が10ポイント程度上がった。</p> <p>▲無言掃除は、だいたいできている。しかし、隅々まで丁寧に掃除をしている児童は少ない。無言掃除をする意味を発達段階に応じて全児童にしっかり理解させることが十分ではなかったのではないかと考えられる。</p>	<p>・みぎある週間や無言掃除強化週間等の取組を、より児童の主体的な活動として位置付けるとともに、全校集会等を利用して、生徒指導主事の話の中にその意味や目的を伝えることで、職員が共通認識の下で指導できるようにしていく。</p> <p>・掃除時には、職員も一緒に掃除をしているが、すみずみまで掃除とはどういうことかを具体的に示していく。</p>					
<p>たくましい体★鍛える</p>	<p>目標に向かって努力する児童の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊び」の重視ー外遊びの奨励、時間と場の拡大 ・年間2回以上のクラスマッチの拡充実施 ・食教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊び児童数 ・新体力テスト (県との平均値比較) ・記録会全種目複数出場と入賞 ・栄養教諭授業実施率 	<p>定点観測 400人</p> <p>上回り項目 2/3以上</p> <p>複数出場と入賞</p>	<p>定点観測 400人</p> <p>上回り項目 2/3以上</p> <p>複数出場と入賞</p>	<p>158%</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>100%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○休憩時間の増加、遊具の充実、遊び場の拡大を行うことで、外遊び児童の数を増やすことができた。また年2回行われるクラスマッチに向けて練習する児童の姿も多く見られ、クラスマッチ開催が外遊び児童数の増加に良い影響を与えることができた。</p> <p>○栄養教諭による専門的な話を聞くことで、食に対する興味関心を高めることができた。</p> <p>○全職員による指導で、記録会へ向けての練習を充実させることができ、児童の各競技への関心・意欲も高めることができた。</p> <p>▲外遊び児童数が増える一方で外での重大なケガも起きているので、児童の安全を確保するための環境整備が必要である。</p> <p>▲残菜を減らすための取り組みを行っていく。</p>	<p>・引き続き、児童が楽しめるようなクラスマッチの企画・運営を行っていく。</p> <p>・定期的に遊具の点検を行う必要がある。</p> <p>・学年別に遊び場を決めたり、遊び方を制限したりして、児童が安全に遊べるよう環境を整えていく。</p> <p>・栄養教諭と連携をとりながら、各学年に応じた食教育を計画的に行っていく。</p>	<p>保健安全給食部</p>	<p>岩本</p>			
	<p>健康や安全を意識し元気に通学する児童の姿</p>	<p>新しい伝統の定着ー静かな学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの無言」の徹底 ・無言移動 ・無言掃除 ・無言集合 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三つの無言」児童による自己評価 	<p>自己評価率 90%</p>	<p>無言移動 83% 無言掃除 76% 無言集合 81%</p> <p>無言移動 93% 無言掃除 87% 無言集合 90%</p>	<p>90%</p>	<p>B</p>	<p>○2か月に1度のみぎある週間や無言掃除強化週間を児童会活動と連動させたり、各クラスでの振り返りを丁寧に行ったことで、前期と比較して3つの無言とも児童の肯定的評価の割合が10ポイント程度上がった。</p> <p>▲無言掃除は、だいたいできている。しかし、隅々まで丁寧に掃除をしている児童は少ない。無言掃除をする意味を発達段階に応じて全児童にしっかり理解させることが十分ではなかったのではないかと考えられる。</p>	<p>・みぎある週間や無言掃除強化週間等の取組を、より児童の主体的な活動として位置付けるとともに、全校集会等を利用して、生徒指導主事の話の中にその意味や目的を伝えることで、職員が共通認識の下で指導できるようにしていく。</p> <p>・掃除時には、職員も一緒に掃除をしているが、すみずみまで掃除とはどういうことかを具体的に示していく。</p>				
	<p>ふるさと西条に愛情をもつ児童の姿</p>	<p>生活・総合的な学習の単元開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新単元の開発 (生活) と2年目単元 (総合) の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別アンケートの実施 	<p>「西条への愛着」 肯定感 100%</p>	<p>「西条への愛着」 肯定感 92%</p> <p>「西条への愛着」 肯定感 94%</p>	<p>94%</p>	<p>B</p>	<p>○生活科での地域を学習対象とした単元開発、総合的な学習の時間での単元修正を行い、地域にかかわり、地域を知り、地域を考えることにより、西条への愛着を高めることができた。特に、地域のために自分のできることを考え、情報を発信したり実行したりする活動により、自分と地域のつながりを実感し、地域貢献を考える児童の増加につながった。(アンケート結果:10月77%→2月83%)</p> <p>▲「西条への愛着」は高まっているが、目標値100%には達しなかった。単元の開発や修正により地域とのかかわりは深まっているが、地域よさや自分とのかかわりを自覚する「振り返り」での活動を工夫する必要がある。</p>	<p>・引き続き、生活科と総合的な学習の時間において今年度の単元を基に修正していく。</p> <p>・西条への愛着をさらに高めるために、単元末の「振り返り」での活動を工夫する。</p>	<p>研修部</p>	<p>菅</p>		

A・・・100≦(目標達成) B・・・80≦(ほぼ達成) C・・・60≦(もう少し) D・・・60>(できていない) 達成度=達成値/目標値